

第 10 回静岡県編さん委員会 審議概要

- 1 開催日時 令和3年3月11日（木） 午後3時00分から午後4時00分まで
- 2 開催場所 県庁別館9階第1特別会議室
- 3 出席委員 川勝 平太 会長（静岡県知事）
 山田 誠 委員（静岡県議会議長）
 小野登志子 委員（静岡県市長会推薦市長）
 後藤 康雄 委員（静岡商工会議所名誉会頭）
 岩崎 清悟 委員（一般社団法人静岡県経営者協会顧問）
 山本 義彦 委員（静岡大学名誉教授）
 鬼頭 宏 委員（静岡県立大学学長）
 堀川 知廣 委員（静岡産業大学副学長）
 鍋倉 伸子 委員（株式会社戸田書店取締役）
 木苗 直秀 委員（静岡県教育長）
 杉山 浩一 委員（静岡県経営管理部長）
- 4 欠席委員 出野 勉 副会長（静岡県副知事）
 太田 長八 委員（静岡県町村会会長）
 長野 蝶子 委員（一般社団法人静岡県地域女性団体連絡協議会顧問）

5 会議内容

(1) 議題等

| | |
|------------------------|------------------------------------|
| ア「別編 人口史編」の刊行について | |
| (報告) | 「別編 人口史編」の刊行を報告 |
| イ「資料編 産業・経済」の最終構成案について | |
| (審議結果) | 最終構成案について承認。 構成案に沿って、編さん作業を進める。 |
| ウ「資料編 政治・行政」の構成案について | |
| (審議結果) | 構成案について検討を進める。 |

(2) 意見交換・質疑応答の概要

ア「別編 人口史編」の刊行について

(人口史編の刊行)

○鬼頭委員 人口史編が刊行を迎えたので御報告させていただく。このような本については、各都道府県ごと、あるいは地域ごとの長い人口の歴史を扱ったものとしては恐らく最初のものである。静岡というこの土地に人々がどうやって住みつき始めて、どうやって増えていったか、そしてその間にどういう出来事があったのか、膨大な時代を視野に入れたものとなっている。また、現代で止めるのではなく、21世紀にはどうなるか、あるいはどうい社会にすべきかというところまで触れさせていただいた。これを参考にして、これからの県政の舵取り、あるいはその標識として活用いただけることを期待している。

また、800ページを超える大部冊となり、若い人が手に取るのは難しいと思うため、お許しを得て、新書版をこれから準備しようか計画を今立てているところである。

(女性を巡る人口の歴史)

○小野委員 拝見させていただいたところ、助産師のお話があり、私の祖母も母も助産師であったので、大変嬉しく今読ませていただいた。その助産師の周辺の人々にまで温かい目を注い

でおられることにとてもいいなと思ったところである。

○鬼頭委員 この箇所は静岡大学の白井先生にお願いした。現在少子化という状況であるが、そういう女性を取り巻く、あるいは女性を助ける方々の存在についても触れたいと思っていた。この編さん会議でも、以前から女性史をもっときちっと取り上げるよう御指示をいただいて、小和田美智子先生にお願いしていたが、執筆を始める直前に急逝されてしまった。その後適任の方を探すことが難しかったため、それぞれ役割を分担していただくということで、なるべく女性のことを取り上げていただくよう他の委員にもお願いした。

○鍋倉委員 私が特に興味があったのが、一つは中世の静岡でどのようなことがあり、どのように推論されているか、それから戦時中の国策と人口の関係や、今鬼頭先生がお話になった女性史的な要素ということを楽しみにしていた。また、鬼頭先生の将来展望も楽しみに今日参りました。先程後書きだけ読ませていただいて、その女性史のことも触れておられるが、まだ先生御自身はもっと、他も含めて入れたいものもおありになるようなので、もしその新書版が本当にできるならば、そういう要素もまた含めて、これがもっと発展していくことを期待しています。

○鬼頭委員 ありがとうございます。

(小学生等に向けた取組)

○木苗委員 今の子供たちにも、この歴史を含め、静岡を知らずに海外に行けと言っても難しい部分がある。自分の国や県がどうだというバックグラウンドを持って海外に出掛けると、全然違う。外国人は皇室のこととか、すごく日本のことをよく知っている。そうして見ると、こういうことはすごくいいなと。

小学生低学年、高学年バージョンのような、あるいは中学生、高校生大学生というようなものを、教育委員会として、皆さんにお世話になりながら、そういうものができる、静岡の良さを感じてくれて、行く行くは最終的には静岡へという、そういう形になれば良いのではないか。

○鬼頭委員 ありがとうございます。先生には是非小学生版を作る時に協力いただきたい。

(人口史における疫病について)

○後藤委員 長い歴史の中で天変地異がいろいろあったと思うが、今回のコロナのような、パンデミックというのは、鬼頭先生のお立場から見て、どのような影響を与えていくのか、もし参考になるお話があればお聞かせ願いたい。

○鬼頭委員 病気についても各時代で取り上げていただくようお願いした。私は奈良時代の天然痘について書かせていただいた。なぜそういうことを県史で書いたかという、県内に奈良時代の税を取るための帳簿が2、3箇所残っている。それを見ると、病死により免税された記録があるので、人口学者がそれを手がかりに天然痘による死亡率を出している。それを紹介させていただいた。

また、第11章に今年1月15日現在の人口10万人当たりのコロナ陽性者率を都道府県ごとに示した図を1枚入れさせていただいた。去年からずっと各都道府県の人口密度と陽性者の数を調べてきたが、夏頃非常にその相関関係が強くなった。つまり、新型コロナウイルス感染症というのは、人口密度に依存する病気であることが良くわかる。

そしてさらに、DID(都市的な人口集中地区に住んでいる人の割合)と都道府県の陽性者率を調べてみると、非常に強い相関がある。そういう意味では、三密を回避するというのは正しい方法であるし、遠くに移動するのも良くないということがよくわかる。

それから、明治期については、川口さんが都市との観点で、都市の死亡率が高い時期に静岡県内でどうだったのか論じている。

そのように、何カ所かで病気の話を挙げているので、そういう意味でもこれからの備えに何か参考になるかもしれないと思っている。

○堀川委員 私も大学で地域の産業などを教えているが、図や表を見て、それをうまく理解・説明できない学生が結構多い。この本を見させていただいたところ、図と表がたくさんあって、何をどういうふうに取り取るかの訓練もできるかと思う。是非これを使わせていただいて、学生に講義をしたい。この次の県史も、ぜひ図や表がたくさんあって、それを読み解く力を学生たちにつけさせるために使うということになれば良いと思う。

○鬼頭委員 巻末に現在までの人口データを、なるべくこの1冊で利用できるような形で、掲載させていただいた。これをデータベースにして、学生にいろいろ、何か見つかるかどうか試させていただければと思う。

○山本委員 私も今年度まで大学で講義していたが、学生たちの関心事はコロナである。

また、私は歴史もしているので、1920年のいわゆるスペイン風邪も同じような傾向にあり、都市部が人口集中が高いのでインフルエンザになるという問題があった。あのときの教訓は内務省衛生局の報告はとても丹念に出ていたが、そういう点では今回の記録をきっちりととどめておくということは大事かなと思う。

○鬼頭委員 ただいまスペイン風邪、大正インフルエンザの話が出たが、実は私の師匠であった速水融(はやみあきら)先生が、インフルエンザの内務省のデータと各地の新聞記事から、ということが起きたのか丹念に編さんされた。そのデータを使って人口密度との関係を調べたところ、人口密度とインフルエンザの死亡率の関係は出てこない。それは多分、こちらは死亡率ではなく陽性率で示したので、それと死亡率の違いはある。つまり、都市であれ農村であれ、その病気にかかった人は死ぬ割合が同じであるとは言えても、感染率が高いということとはまた別の話である。

また、スペイン風邪の統計はコロナと違い、日本中至る所に行き渡った最後のデータをまとめたものである。だから、もしかしたら今度のコロナも、地方圏へどんどん広がっていったら同じように人口密度との関係はなくなってしまうかもしれない。そこは注目して見ていきたいと思う。

(産業と人口の相関について)

○岩崎委員 私は経済人なので、すぐ産業と人口という観点から見ってしまう。静岡県は17兆円位総生産があり、特に戦後急激に膨らんでいったが、やはり戦後の高度成長の時に静岡県の人口は膨らんでいく傾向が見られるのか。

○鬼頭委員 このような図があるが、明治中頃からはほとんど同じペースであがっていく。特に戦後になって加速したというわけではない。

あとやはり人口と経済との関係は非常に強く、少なくとも江戸時代までは、縄文時代の狩猟採集経済も含めて、植物あるいは動物の生産量というその土地の生産力と非常に密接に結びついていて、当然土地の面積とも繋がっており、その時代の人口の収容力の許容量まで来ると、人口増加は止まってしまう。そして生産力が上がっていくとまた人口が増えるという。つまり生産量が上がるというのは、単に量が拡大するという意味だけでなく、社会の構造が変わることになる。それらについては本文の最初の章にあるため、御覧になっていただきたい。

(総合計画との関係について)

○鬼頭委員 最後に県の総合計画との関係について強調したい。県の総合計画は、それぞれの項目を持続可能な開発目標17のうちのどれと結びつかせるか書いてあるが、それはつまりGDPを上げるということではなく、どれだけよりよい暮らしができる社会に結び付けていくか、GDPだけではない指標を重視しているのが県の方向だと思う。私も全くその通りだと思っているが、出生率をこれから上げていかななくてはいけないが、そのためには静岡が暮らしやすい場所だということで、そこの中身をいかによくしていくかということだと思う。

また、女性の地位の問題について、男女格差と出生率というのが、先進国の間ではか

なり相関がある。つまり、ジェンダーギャップを解消することによって、女性が働くことと子育てとを夫と協力してうまくやっていけるようになれば出生率は上がるということの意味していると思う。ということはやはり、SDGsの中の「女性の地位の向上」ということと密接に結びついている課題だと思う。

ですから、これから静岡県の人口の減少をどこかで食い止めて安定させていくためには、経済力を強くすることはもちろん、それ以外の側面でも、暮らしよさというのを意識できるよう向上させていくことが必要ではないかと考えている。

○川勝会長 ありがとうございます。

イ「資料編 産業・経済」の最終構成案について

ウ「資料編 政治・行政」の構成案について

(資料収集等について)

○山本委員 現在行政資料その他の出方が非常に十分でない。公表されている刊行物を中心にしてしかなかなか書けないが、行政資料等を含み込んでやらないと本当は県史としては十分ではない。また、空港資料編の時は、県庁に十分に資料がない分、関係市町の資料で何とか補足するというやり方をやってきたが、今回それをやるにはマンパワーが足りない。何とか改善・工夫したいと思っている。

また、公文書管理という観点だけではなく、歴史資料保存というもう1つの観点を入れないと、十分な資料保全にならないので、これも是非考えていただきたい。

公文書管理の問題と歴史編さんという問題を、作業量をよく考えて工夫していただかないと。「産業・経済」の他に「政治・行政」「社会・文化・教育」をこれからやるが、マンパワーが少ないので、どうしても「産業・経済」をやると他のところになかなか手がつけられないというのが現実である。その辺りもぜひお考えおきいただいた方がよい。

また「政治・行政」については、まだまだ手つかずの部分が多い。「政治・行政」はまさに政治・行政資料となるので、できるだけ急いで態勢を組みたいと考えている。

今回の「政治・行政」の構成案は大枠で、第1編が60年代から90年代中期まで、第2編が1996年位から2009年位までを対象とするよう、編別構成を大ぐりにした。これは何故かという、小選挙区制が入って、地域行政と国との関係が変わる大きな転換点がこの96年位から出てきているからである。

先生方によってはもっと詳しい段階の項目になっているものもあるが、不統一であるため、今回は基本的な枠組に限定させていただいた。

○堀川委員 今山本先生のお話にあったように、資料を集めるのは大変なことである。特に、農業や工業の面は、その技術開発の力と、工業の発展、あるいは農林業の発展とかなり密接なところがある。試験研究機関では10年史や50年史等も作っていると思うので、参考にさせていただければ、技術の発達と産業の発達というところが、かなりリンクして記述に使えるかと思う。

また、お茶については、静岡県は1次産業から3次産業までの場面が一緒になっていて、それに製茶機械や流通とかも含めて、かなり全体として大きな産業となっている。茶業会議所が出している「月刊 茶」という資料が私のところに全部あるので、また言うただけであれば資料として使っていただけたらと思う。

「こんな資料があったらよい」というものを教えていただければ、知り合いにも照会し、収集に協力したいと思うので、是非情報をいただければありがたい。

○山本委員 ありがとうございます。ただ、農業分野のウェイトが高く取れないので、農業経済学

の分野からアプローチしてもらおう角度で整理するのが精一杯である。今のところは難しい。ただ、全体解説その他をするので、御指摘のような問題は担当者も意識しているので、おそらく展開は可能だろうと思っている。

○堀川委員 わかりました。

○小野委員 その農業のページが取れないというお話だが、第1編第2章の「農林業と開放経済体制」については、過去のものではなくこれから一番必要な事業になっていくものである。その他、第4節の「農協と農業金融」や第5節の「基本法農林政と県林政」など、我々の携わっている地方の行政に関わってくる大切なものがたくさんあると思っているので、期待させていただきたい。

○川勝会長 まず、この「政治・行政」のほうは、まだこれからという感じですね。それから「産業・経済」は資料にアクセスするのが大変困難という話であり、何とかこれまで先生の御要望に応えるようにしてきたわけであるが、まだまだ不十分だということなので、とりあえずどこかの章なり節なりで徹底的に1回出してみたら、やり方がわかるのかとも思う。全部一気にというのは難しいので、一点特化して、そこでノウハウを覚えて、他の章・節等でそれを提供していくというようにしていく以外ないかと。大変だというお話なので、できる限り事務局としても、そのお手伝いをさせていただければと思う。

また、堀川委員はお茶、木苗先生はわさびで、堀川委員がお茶のことを話し始めると1冊の本になる。だから、たとえばそれだけで今回の人口のような、資料編というか、あるいは1冊を編めるということも言えるかもしれない。

そういうことで、全体を概観するのがいいのか、あるいはどこか個別に静岡県の農業なり工業なりに絞って、そこでとりあえず書いていただくのがいいのか。全体を先に書いてから個別にということもあるが、山本先生は徹底的に資料を博搜した上で全体像を描きたいとおっしゃっている訳であるが、それでは今マンパワーが足りないということであるとすれば、とりあえずどこか執筆者の御関心のあるところを徹底的にしてみるというようなことをしてみるか。あるいは、委員の一人が、お茶やわさびということにプロであるので、そういうところを取りあえずしっかり描いてみて、場合によってはそれで1巻編むとか、あるいはもう1回この編立構成を考え直すとかいうことも、考えなくてはならないというような印象を、私は受けております。

○山本委員 私の方では、やはり何らかの意味での概観的資料集は必要であると考えている。それはメインストリームをちゃんと作っておかないと困るだろうと。あと、個別の資料についていえば、茶業史などいろいろなものが出てくるので、その出ているものをもっと尊重した位置付け直しをすることを十分やっていけば良いのかなと思う。それはある意味では、通史の展開をするときの活用資料としては生きるのではないかなと思う。

また、今回の調査ですごいと思ったのは水産業である。漁協さんを調査したところ、漁業組合等の資料が残っていたのが出てきたのである。その他でも、茶業史なども歴史があるので、それは使えるような感じがする。

○川勝会長 水産、わさび、お茶、柑橘、あるいは履物史も立派なものが編まれている。そういうようなものはそういうものとして、やはり今山本先生が描かれているような、全体の鳥瞰ができるような資料集を編むということでお進めになりたいということなので、できる限り必要な資料を、事務局がマンパワーの不足をお手伝いしながら、資料が出やすい形に変えていくということ。

(審議とりまとめ)

○川勝会長 この「産業・経済」については、この構成案でよろしいか。「政治・行政」については、ちょっとまたこれからという感じがありますので。取りあえず「産業・経済」の方が進んでいるので、そちらの方をこの構成案に沿って進めていただくということで、よ

ろしいか。

(「異議なし」の声あり)

○川勝会長 ありがとうございました。それでは、本日の用意いたしました議事は終了しました。
以上で本日の議事を終了します。